

河南町ひとづくりビジョン（人口ビジョン） 概要版

I. はじめに

1. 背景

- * 日本は人口減少時代に入
- * 国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」では、「人口減少がこのまま続けば、人口は急速に減少し、その結果、将来的には経済規模の縮小や生活水準の低下を招き、究極的には国としての持続性すら危うくなるのである。」と警鐘を鳴らす
- * 河南町の人口は、平成 17(2005)年国勢調査の 17,545 人をピークに、平成 22(2010)年の国勢調査で減少に転じた

2. 人口ビジョン

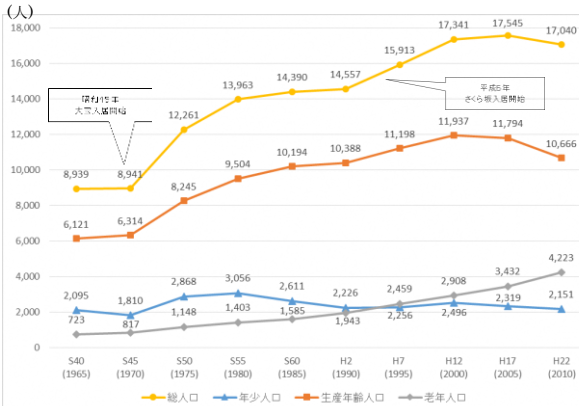
- * 国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」を踏まえ、河南町の人口を分析し、人口減少問題に関する住民の認識の共有、平成 72(2060)年までの将来の方向と人口の展望を示すもの

II. 河南町の人口の現状

1. 人口

◎大規模住宅団地開発により人口は 2 倍に。平成 17(2005)年の 17,545 人をピークに減少

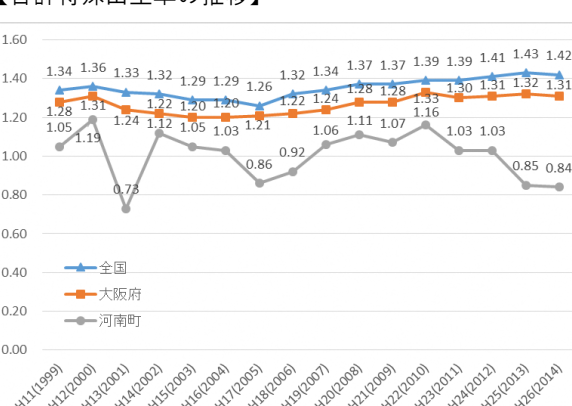
【人口の推移】



2. 自然動態

◎合計特殊出生率は平成 24(2012)年までは、概ね 1 から 1.2 の間で推移。平成 25(2013)年以降下降傾向

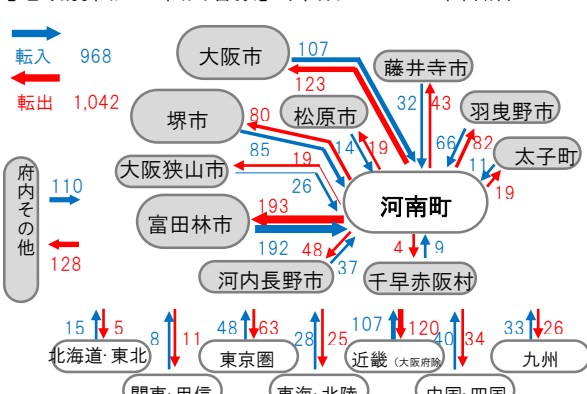
【合計特殊出生率の推移】



3. 社会動態

◎羽曳野市、大阪市、近畿圏、東京圏などで転出超過

【地域別転入・転出者数】(平成 24・25 年合計)



III. 社会保障・人口問題研究所による人口推計

- * 平成 52(2040)年には 12,500 人程度、平成 72(2060)年には 8,900 人程度
- * 平成 22(2010)年を基準とすると、平成 52 年には 27%減、平成 72 年には 48%減
- * 平成 22(2010)年以降、年少人口・生産年齢人口は減少。老年人口は、平成 32(2020)年までは増加するが、以後横ばいとなり、平成 52(2040)年以降減少に転じる
- * 平成 52(2040)年には老年人口と生産年齢人口の比率は 1 : 1.3、平成 72(2060)年には 1 : 1 に

IV. 将来展望

1. 人口減少・人口構造変化が地域の将来に与える影響の考察

【生活へ与える影響】

- * 空き家、耕作放棄地の増加により、治安面の不安増大や地域魅力の総合的低下
- * 少子化に伴う学校規模縮小。高齢化に伴う地域活動の担い手減少、一人暮らし高齢者や孤独死の増加
- * 路線バス等の地域公共交通の縮小により交通利便性が低下
- * 医療介護関連サービス等の生活基盤サービスが縮小

【地域経済へ与える影響】

- * 生産年齢人口の減少に伴う活力低下、技術伝承が懸念
- * 人口減少による消費支出の減少、人口構造変化に伴う消費スタイルや支出品目の変化
- * 店舗や売上の減少による地域経済の停滞。購買の選択性が縮小し利便性の高い場所への人口流出も懸念
- * 人口の減少や空き家の増加による不動産活用の低下

【財政へ与える影響】

- * 住民税や固定資産税等の減少と 1 人当たりの負担増大が懸念
- * 老年人口の増加に伴う医療費・社会保障費の増大
- * 生活に必要なサービス維持、防犯、治安維持等の歳出増加
- * 公共施設の再編統合

2. 目指すべき将来の方向

<人口の将来展望>

平成 72(2060)年に 17,000 人

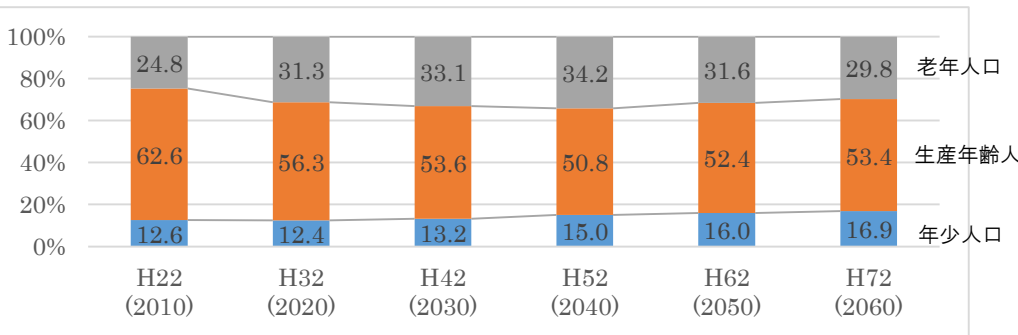
<合計特殊出生率>

○平成 42(2030)年に 1.8、平成 52(2040)年に 2.07 に向

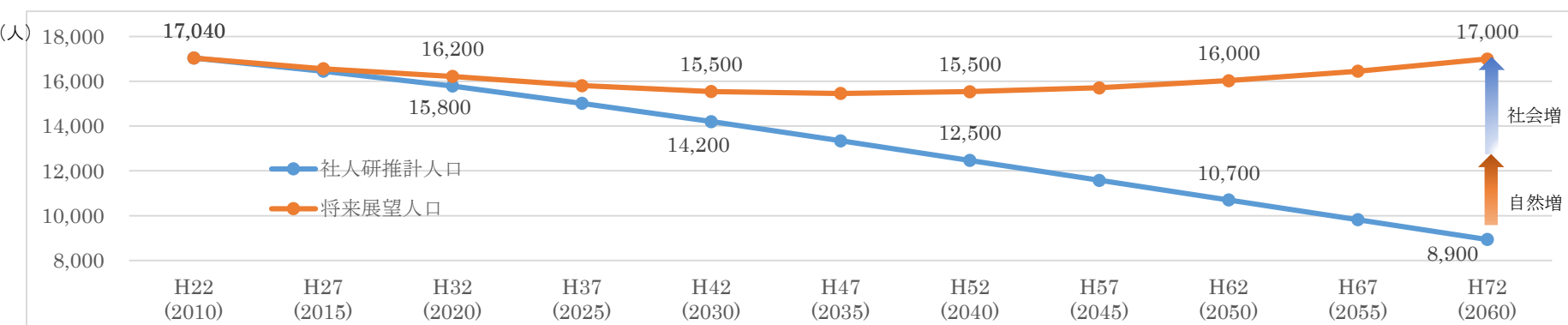
<人口の定着>

○社会増を平成 37(2025)年に 35 人程度、その後徐々に増やし、平成 52 年(2040)年に 120 人程度、平成 72(2060)年には 180 人程度に増やす

【将来展望人口の年齢 3 区分別割合】



【河南町の将来展望人口】



<取り組みの方向性>

住みたいまち、住み続けたいまちを目指して

- ◇子育て・教育等の総合的な支援の充実により、若い世代が魅力を感じる河南町をつくり、出生数の増加を目指す。
- ◇すべての人の生活の場を整え、人口の流出を抑制する。
- ◇暮らしやすさ、環境、仕事等の地域魅力を発信し、活発な地域間・世代間交流や I・J・U ターンを促す。